

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (相可高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒の夢をかなえる学校
		○地域と共に歩む学校
(2)		○教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校
		育みたい 児童生徒像
ありたい 教職員像		○変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
		○生徒の学力向上に努めるとともに、生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員
		○同僚性を発揮するとともに、互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒、保護者> 学習指導・生徒指導・進路指導・部活動指導の充実</p> <p><地域> 地域活性化への貢献、卓越した取組とその成果の継承</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境</p> <p><中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などの情報提供</p> <p><地域社会・企業等> 地域活性化への貢献、話題性によるイメージの向上</p>	<p><家庭> 学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導</p> <p><中学校> 基礎学力の定着、本校教育内容の理解</p> <p><地域社会・企業等> 教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供</p> <p>部活動の指導等への支援（地域部活動の設置）</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○教職員一人ひとりの「資質能力向上」、「授業力向上」のための取り組みを、学校全体としてさらに推し進めていく。</p> <p>○教職員の過重労働・時間外労働時間の軽減については、生徒を対象とする学校組織において、また限られた数の教職員、予算の中では大変難しい課題であり、これをやれば一朝一夕に解決できる課題ではない。地道に毎年一つ一つ出来る工夫・目標を学校全体として立て、それを実践していくことが求められる。</p> <p>○働き方改革と実務との矛盾の中で、本当によく努力を積み重ねていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育へのさらなる検討 ・普通科生徒への目的意識をいかにつけ、伸ばすのか、進路実現への努力 ・制服の着方、身だしなみ、マナーについて、全教職員一丸となった取組の継続 ・教職員の指導力向上やコンプライアンス研修等についても継続 ・中学生・保護者・地域への情報発信 	

	<p>○環境創造科に対して「2級土木施工管理技術検定」の資格取得指導を、令和3年度も引き続き行う。</p> <p>○環境創造科を卒業し、将来「公務員（土木専門職）」を目指すのであれば、国家公務員、地方公務員、建設業、建設コンサルタントへのインターンシップを経験させてほしい。</p> <p>○多気中学校は、今後も地元高校である相可高校との連携をより一層推進したい。</p> <p>○生徒一人ひとりに対し、先生方が寄り添って指導してくれている。</p>
(4) 現状と課題	<p>教育活動</p> <p>○学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した学びについて ・生徒に自主的に探究する姿勢を身につけさせ、深い学びの充実を図る。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服の着方等の身だしなみやスマホの扱い（歩きスマホ等）などについて、生徒指導部を始め全職員で注意する姿勢を持つ。 <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の進路指導力向上のために、より一層の情報提供、研修体制の充実を図る必要がある。 ・昨年度コロナで実施できなかった大学見学会や看護体験等が実施できるよう年間計画を作成する。特に、看護希望者が体験を積む機会を保障する。 <p>○保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に関する啓発活動を行うとともに、毎日の検温と健康観察の効率的な把握方法を検討する。 <p>○専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の増加に伴う教職員の多忙化が課題となっている。今後の地域連携の在り方について検討する。
	<p>学校運営等</p> <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科の特色ある教育活動を、中学校訪問や高校生活入門講座、ホームページへの掲載、新聞報道等で中学生・保護者・中学校の先生に発信する。 <p>○組織力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質能力を向上させるための研修を実施する。 <p>○信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の不適切な言動により、生徒を傷つけたり信頼を損ねることのないよう、コンプライアンス研修を行い不祥事の根絶に取り組む。 <p>○働きやすい職場環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の願い（進路希望、部活動の成績等）に応えるために、時間を惜しまず指導する教職員も多く、なかなか過重労働が減らない。 ・GIGAスクール構想に対応できるような体制づくりが必要である。 ・SC、SSW、SSS、教育相談員、GIGAスクールサポーター、発達障害支援員、不登校支援アドバイザー、部活動指導員、運動部活動サポーター等の活用について ・部活動数の適正化について ・地域部活動の導入について

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしている。</p> <p>○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献している。</p>
学校運営等	<p>○「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>○ICTの活用により学習保障を図ります。</p> <p>・1年生全学科、2年生普通科、3年生普通科で、スタディサプリを積極的に活用します。</p> <p>【活動指標】 各教科・科目でのICTを活用した学びの実施。</p> <p>【成果指標】 各教科・科目でのICTを活用した学びの実施率: 100%</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」について、各教科・科目での充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施。</p> <p>【成果指標】 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施率: 100%</p> <p>生徒実態調査における学習時間の増加。図書館の利用者数の増加。</p>	<p>・普通教室に設置された電子黒板機能付きプロジェクターを各教科の授業で活用している。また、一人一台パソコンだけでなく、Chromebookを活用し、様々なアプリケーションを活用した授業を実践している教師もいる。</p> <p>・研修会を実施し、ICTを活用した授業がさらに実践できるように学校として進めている。</p> <p>・積極的にスタディサプリを利用し学習時間を大幅に増加させている生徒もいるが、多くは定期考査前みの学習で前年と比較しても数値はほぼ変わらない。</p> <p>・10月4日(月)～8日(金)で「教員研修用授業公開週間」を実施し、「主体的・対話的で深い学び」を含めた授業力アップの意識付けの機会を設けた。</p> <p>・各教科の授業でグループでの調べ学習、まとめ学習、発表などアクティブラーニングを中心とした授業が展開されている。(学習成果発表会や探求学習の発表において、その内容が高評価である。)</p> <p>・この2年間、コロナウイルス感染症の影響もあり、図書館の利用者は横ばいである。</p>	

生徒指導	<p>○高校生として自主・自立の生活態度を養わせる指導の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 挨拶、時間厳守、マナー遵守など基本的な生活習慣の確立</p> <p>【成果指標】 基本的な生活習慣が確立している生徒の割合：90%以上</p>	<p>・挨拶については、ほとんどの生徒が気持ちよく挨拶できる。</p> <p>・時間厳守については、一人で年間15回以上遅刻する者もいる。</p> <p>・マナー遵守については、地域や公共交通機関等における苦情を、数回頂いた。</p> <p>・全体としては、身につけなければならない生活習慣を90%以上の生徒が達成しているが、ごく一部の生徒の行動が目につく。</p>	
進路指導	<p>○3年生全員の進路希望実現を目指します。</p> <p>【活動指標】 進路希望調査に基づく企業訪問と情報交換の実施。文章指導の充実。入試情報の収集と共有。</p> <p>【成果指標】 生徒の希望する企業との情報交換：100%。 就職講話、総合型選抜・学校推薦型選抜対策講座等での文章指導の実施。</p> <p>○生徒の主体性を涵養し、生徒自身が能動的に進路実現を果たせるよう、3年間を通じたキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 総合的な探求の時間、LHR 等を活用した進路指導の実施。希望者によるインターンシップの実施。スタディサプリの活用と全学科での実力テスト実施。</p> <p>【成果指標】 進路学習の実施：各学年3回以上。 進路だより等での情報の発信：各学期1回以上 進路指導に関する職員研修の実施。</p> <p>○保護者への進路情報発信に務めます。</p> <p>【活動指標】 総務部や学科と連携した保護者会の実施、参加。保護者向け進路情報の発信。</p> <p>【成果指標】 学科保護者会への参加：1回以上</p>	<p>・成果指標にあげた「生徒の希望する企業との情報交換」、「文章指導の充実」を通じ、学校斡旋を希望した就職希望者全員の内定が得られるなど、順調に生徒の進路希望を実現することができた。引き続き一般選抜で受験していく生徒の希望進路実現に向けて支援を続けていく。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響を受け、3学期に予定していた進路ガイダンスが中止となったが、2年生普通科の総合的な探究の時間での進路探究等、計画的に進路学習を実施した。また、進路だより、学校新聞等を通じての情報発信を行った。職員研修については、今年度導入したスタディサプリに関する研修を実施した。</p> <p>・3月に普通科と連携して、進学希望の保護者を中心に保護者会を実施する。</p>	◎
保健指導	<p>○生徒が健康上の課題を認識し、生涯にわたって、より健康的な生活を送るための実践力を身につけるよう適切な援助や啓発を行います。</p> <p>【活動指標】 新型コロナウイルスをはじめとする各感染症への予防啓発。ヘルスカウンセリングの充実。校内ゴミ</p>	<p>・校内放送や配布物、掲示物、行事毎の連絡などを通して、感染症予防と健康管理の啓発を行った。</p> <p>・毎日の検温と健康観察カードの記入にあわせ、オンラインでの健康観察入力を開始し、生徒達の自己管理への意識をより高めることがで</p>	

<p>専門教育</p>	<p>分別の指導。 【成果指標】 各種掲示物・配布物等による啓発、指導の実施。 保健だより、カウンセリングだよりの発行：各年3回 ゴミ分別の実施：100%</p> <p>○資格取得や各種大会への出場を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図ります。 ○他教科・他学科・地域との相互連携を図り、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。 ○外部講師による生徒・職員向け研修会を実施し、専門性の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】 他教科・他学科・地域との連携 外部団体との連携については、一部見直す</p> <p>【成果指標】 他教科・他学科・地域との連携の実施率：100% 生徒・職員とも研修会の実施：1回以上</p>	<p>きた。 ・保健だより発行 17 回、カウンセリングだより発行 3 回</p> <p>・農業学科では新たに2つの資格取得を実施した。 ・環境創造科では測量士・測量士補・2 級土木施工管理技術検定の取得に取り組み、コロナ禍で大変ではあったが測量士に 2 名の合格者を出せた。測量士補、2級土木施工共に、卒業時には、ほぼ全員が取得している。 ・日本農業技術検定にチャレンジする生徒も増え、合格率もアップした。 ・生産経済科と食物調理科の連携では、農場生産物の利活用についてその取り組みを推進した。 ・コロナ禍で、各種大会や外部から講師に来ていただく研修会が中止となるなどの変更もあったが、可能な範囲で状況を見ながら実施した。</p>	
-------------	---	---	--

改善課題

- 学習指導
 - ・毎年の課題ではあるが、家庭学習の時間が増えるよう習慣化させる必要がある。
 - ・新学習指導要領への対応(新科目、観点別学習状況評価、教科「情報」等)
- 生徒指導
 - ・勤務時間外や学校の敷地外での登下校指導の在り方
 - ・暗くなった下校時に出没する不審者への対応(警察との連携)
- 進路指導
 - ・4学科設置する学校ならではの多様な進路先(大学、公務員、就職)への希望実現
- 保健指導
 - ・新型コロナウイルス感染症の予防
- 専門教育
 - ・資格取得についての指導
 - ・コロナ禍で実施できなかった地域との連携や研修会の実施(外部との連携)

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
 また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信	<p>○中学生が本校への進学を希望するよう、情報発信を積極的に行います。</p> <p>【活動指標】 中学校との連携、学校説明会の実施、ホームページの活用、関係者・報道機関への情報提供</p> <p>【成果指標】 募集定員の充足率:100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校説明会を、外部で3回実施した。塾対象の説明会を1回実施した。 ・HPはあまり活用できなかった。 ・HPに「相可高校校歌」、「相可高校イメージ動画」を載せることができた。 ・前期選抜志願者数:普通科(74名)、生産経済科(35名)、環境創造科(44名)、食物調理科(31名) 	
組織力の向上	<p>○校内研修の実施により、教職員の資質能力を向上させるとともに、同僚性を育みます。</p> <p>【活動指標】 校内研修の実施</p> <p>【成果指標】 校内研修の実施:1回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に「ジェンダー」に関して人権研修を実施した。 ・10月にICT研修会を実施し、来年度1人1台パソコンを持って入学してくる生徒への授業方法等を学んだ。 	
信頼される学校づくり	<p>○事例研究・研修等を通して、教職員のコンプライアンスに対する意識を高めます。</p> <p>【活動指標】 コンプライアンス研修の実施</p> <p>【成果指標】 不適切事案の発生:ゼロ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月にコンプライアンス研修を実施した。 ・2学期にヒヤリハット事例の収集と共有をした。(42件) 	
働きやすい職場環境づくり	<p>○健康で働きやすい職場環境づくりのために、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:70%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合:92%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合:50%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者の人数:0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数:0人 ・1人当たりの月平均時間外労働:10.8時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数:8日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教職員の過重労働が解消できなかった。部活動数の見直し(廃部のルールを作成した。) ・設定した日に定時退校できた教職員の割合:96.7% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合:98.2% ・会議時間60分以内の実施率:58.7% ・年360時間を超える人数:10人 ・月45時間を超える人数:7.89人/月 ・1人当たりの月平均時間外労働時間(全職種平均):17.1時間 ・1人当たりの年間休暇取得日数:9.18日 	◎
改善課題			

○情報発信

- ・H6に食物調理科を設置した以来、初の定員割れ
- ・普通科と生産経済科も定員割れの可能性あり

○組織力の向上

- ・社会の変化に対応できる教職員の資質能力の向上

○信頼される学校づくり

- ・「信頼される学校であるための行動計画」の検証・見直し

○働きやすい職場環境づくり

- ・年間休暇取得日数は増えたが、時間外労働は増えた。

5 学校関係者評価

○学習指導

- ・コロナ禍における双方向型の遠隔授業を見学する中で、生徒一人ひとりの学びの継続・保障に向けた授業における先生方の創意・努力を感じた。
- ・分散登校において、教室で落ち着いて学習に取り組む生徒の姿があり、これは日常における先生方の丁寧な指導によるものと感じた。
- ・感染症対策のガイドラインによると、「生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク」は、「感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い学習活動」に当たるとされているので、各教科で行っているグループ学習は、実施するうえでどのように工夫されていたのか気になった。

○専門教育

- ・生産経済科と食物調理科の連携は、その成果を校内だけでなく、外部へも情報発信すると、地域も保護者も元気が出てくると思う。
- ・土木専門職のインターンシップは可能な限り実施していただければと思う。受け入れ側の学びにもつながる。

○情報発信

- ・定員割れは学校だけの問題ではなく、地元の問題でもある。たくさんの生徒が安心して学び続けられる地域であり続けることが重要である。ともに知恵を出し合い、地元もできるだけ協力しなければならないと考える。
- ・多気中学校では、3年生の農業体験学習で協力を得ているが、1・2年生の段階から連携した取組を進めることで、さらに学習効果を高めるとともに、高校の内容理解につながるのではないかと思う。また、連携による取組を郡内中学校に拡大させていくことで、進学目的を明確した進路選択につながり、入学希望者の増加につながると考えられる。
- ・中学生（特に多気、勢和中学生）に対し、相可高生から、なぜ相可高校を選んだのか、実際はどうかなど、聞く機会を設けてはどうか。
- ・それぞれの科で取り組んでいる授業内容や成果はどれも大変素晴らしいが、それが十分に伝わっていないように感じる。
- ・どんな教育が受けられるのか、どんな将来を描けるのかを、学校からも町からも一緒になって、少しでも外に発信できるようになれば、例えば移住施策にも大変有効だと考える。
- ・製菓コースについては、「生産経済科との交流」、「校内で生産から製造までできる」、「企業連携の積極的な実践」などを外部に発信し、今できる「新しい製菓コース」を大々的にアピールする。

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れてみると、製菓コースのやっていることが全く見えてこないのので、中学生や地域に分かってもらう取り組みを早急にやらなければならないと思う。例えば、リーフレットやチラシの作成、ビデオレター作成、オンラインでの中学生との製菓実習等の交流など、これまでの製菓コースの実践にとられない方法・内容をみんなで作り上げていくことが必要だと思う。 ・来年度は定員割れを起こさないための至急の妙案を、みんなで力を合わせて練ってほしい。 <p>○信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の本質に立ち戻り、学校とは生徒と教師の信頼関係が何よりも重要で、この1点に絞り、人間教育を中心に、日頃の教育活動を追求していけば、その目的は達せられ、同時に周囲の理解も得られると思う。そのためには、日頃から生徒との接触を密にし、生徒の本音を引き出し、生徒及び家族との人間関係を構築し、信頼を築いていくことが大切ではないかと思う。 ・このまま多くの課題を背負ったまま、無防備に進んでいけば、多くの教師は壊れてしまうのではないかと心配する。そのためには、管理者が多くの課題を交通整理しながら教職員との真の人間関係を構築し、互いに協力しながら、学校教育の目的の達成を目指すべきだと思う。「学校が変わるのは、教職員がまず変わるべきで、そうすれば、生徒が変わり、学校全体が変わる。」と考える。 ・コンプライアンス研修で、校内の先生方の様子はどのようにかわったのか。 ・校務多忙な中で、教職員の研修機会が設定されており、リーダーを中心とした組織体制が確立されている。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想により急速に整備された ICT 環境を活用し、「個に応じた指導」を充実していく。 ・探究的な学習や体験活動などを通じ、生徒同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら「協働的な学び」を充実していく。 ・地域や社会の将来を担う人材を育成するため、地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに、探究学習等の機会を使って取り組む。 ・地域の産業界を支える職業人を育成するため、企業等の外部講師の招へいやインターンシップ等、直接、地域の方から学ぶ機会を充実していく。 ・コロナ禍とはいえ、同じ空間で時間を共にし、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことは重要なことなので、感染対策を徹底しつつ、人間同士のリアルな関係作りやリアルな体験を通じて学ぶことを大切にしていく。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の学習内容や学校の様子を、中学生や地域の方に知ってもらうよう、様々な機会を作り情報発信する。(体験学習、高校生活入門講座、中学校訪問、各種交流、ホームページ、パンフレット、チラシ、地域のイベントへの参加、報道機関等) ・教職員が新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、生徒一人ひとりの学びを最大限に引き出せるよう研修の機会を充実していく。 ・学校における働き方改革を実現するためにも、ICTを活用して業務を効率化したり、教員だけでなく事務職員やSC、SSW、SSSなどそれぞれの分野の専門性を有する多様なスタッフがチームとなり、組織的・協働的に取り組む。